

## 「学びの実感」を積み重ねるために

### 「子どもの思いに寄り添い、『学びの芽生え』を育む」保育

子どもが「学びの実感」を積み重ねていくためには、幼児期に、「学びの芽生え」を育てることが重要です。「学びの芽生え」とは、子どもが、楽しいことや好きな遊びに集中する中で、体全体を通して感じる気付きであり、子どもが発する「いいこと考えた!」「こうだったら面白そう。」というような言葉にも、それを感じることができます。

砂場で遊んでいたAさんは、1枚の落ち葉を見付けました。「あっ、いいこと考えた!」とつぶやき、その後、砂場に作った水路に流したり、砂に埋めたりと遊びを広げていきました。自らのアイデアで遊びを発展させていく「学びの芽生え」の一場面です。

このように、子どもが遊びを通して、知的好奇心や自ら学ぼうとする意欲を高めるよう、教師には、子どもの思いに寄り添い、環境の構成を工夫したり、子ども自身がやりたいことを実現できる援助をしたりすることが求められています。さらに援助をする際には、次の学年や小学校へのつながりを含んだ、子どもの発達や学びの連続性・一貫性についても意識する必要があります。

#### ■ ポイント 1

##### 環境の構成、再構成を工夫する

幼児教育における「環境」とは、人的環境（教師、友達等）、物的環境（遊び道具、動植物等）、自然や社会の事象を含めた全ての状況を指します。



- 不安や緊張感のある状態では、子どもは本来の姿が出せません。また、子どもの周囲に、物を置いておくだけでは、子どもの中に「(置いてある物に) 関わりたい」という気持ちは起こりにくいものです。まず、安心して活動できる雰囲気をつくり、その上で子どもの発達の段階や興味に即して遊び道具等を準備したり、遊びの場を整えたりすることが大切です。
- 保育は、教師の予想通りに展開するとは限りません。様々な環境によって子どもの心は揺れ動き、予想を超えた活動が展開されることもあります。子どもが発達に必要な経験を得られるように、教師には、子どもの思いを汲み取り、環境を再構成することが求められます。

#### ■ ポイント 2

##### 子どもがやりたいことを実現できる援助を心掛ける

- 遊びは、子どもによって展開されます。しかし、放任していたのでは「学びの芽生え」を育む充実した遊びにはなりません。教師は、遊びが様々に変化していくことを予想しながら、子どもが、自ら遊びを展開していくことができるよう適切に援助する必要があります。その際、教師の思いが先行したやらせたいことの押し付けにならないようにしましょう。
- 教師は、日頃から子ども一人一人の発達の様子や、子どもの遊び等に関わる中で、子どもがやりたいと思っていること、直面している課題等を把握しておくことが大切です。子どもの発達の様子、思いや課題の把握に基づき、適切なタイミング・方法による援助を心掛けたいものです。

#### ■ ポイント 3

##### 小学校以降の生活や学習の基盤の育成を意識する

- 子どもの発達や学びは連続し、一貫していることから、幼児期に、小学校以降の生活や学習の基盤の育成を意識することが重要です。しかし、それは、小学校教育の先取りをするということではなく、子どもが、「こうだったら面白そう」と試行錯誤する姿、「もう一度やってみよう」と挑戦する姿等、自ら学ぼうとする姿勢を引き出すということです。
- 「協力して目標の達成を目指す」という態度も、小学校以降の生活や学習の基盤になる大事な態度の一つです。教師は、心のつながりのある温かな人間関係をつくり、幼児期のうちから、子どもが協同して遊ぶことができるような環境の構成と援助を心掛けましょう。

#### ■ 実践事例 (4歳児)

月の指導計画のねらい等を、週案、日案に具現化し、長期的・中期的・短期的に捉えています。

月の指導計画(11月) 抜粋	
ねらい	・体を動かして遊ぶ楽しさを味わう。 ・いろいろな遊びを楽しみ、友達との関わりを広める。
内容	・友達と一緒にいろいろな運動遊びを楽しむ。 ・遊び方を知り、安全に気を付けて遊ぶことに気付く。 ・遊びの中で自分の思いや考えを話したり、相手の話を聞いたりする。

週案(11月第4週) 抜粋	
ねらい	・のびのびと体を動かしながら、ルールのある遊びを十分に楽しむ。 ・思いを伝え合いながら、友達と関わって遊ぶ楽しさを味わう。
内容	・体を動かして遊ぶ楽しさを味わい、友達と一緒に運動遊びを楽しむ。(健康、人間関係) ・ルールや遊び方を知らせ合いながら、安全に気を付けて遊ぶ。(健康、言葉) ・いろいろな遊びを楽しむ中で、友達のよさに気付き一緒に遊ぶ楽しさを味わう。(健康、人間関係) ・思いを話したり、友達の話を聞いたりして、分かり合おうとする。(言葉、人間関係)
★環境の構成	★子どもの求めに応じて、様々な遊びが楽しめるよう、運動用具等を準備しておく。 ★危険が予想される遊びの場には、状況に応じて教師が寄り添い、安全に遊べるよう留意する。
☞援助	☞遊びに消極的な子どもには、教師と一緒に取り組むなど、遊びに興味を持てるようにする。 ☞教師も子どもと遊びを楽しみ、体を動かす気持ちよさや皆で遊ぶ楽しさを共有していく。 ☞思いを伝え合う場を持ち、一緒に困ったり考えたりして様々な心の動きを受け止めていく。 ☞頑張っている姿や挑戦する気持ちを認め、少しの変化と一緒に喜び、自信を持てるようにする。

日案(11月22日(火)) 抜粋		※ねらい	★環境	☞援助
時間	一日の流れ	※ねらい ★環境 ☞援助		
9:00	自ら選んで遊ぶ	※のびのびと体を動かして遊ぶことを楽しむ。	※友達と一緒に遊ぶ中で、自分の思いを相手に伝える。	☞週のねらいを重点化しています。
	前日の保育の振り返りを生かした環境の構成が図られ、子どもと共に遊びを創り出そうとしています。	★前日の子どもの様子や保育の振り返りを基に、興味のある遊びに取り組めるよう、遊びの動線を考えて環境を整えておく。	★安全に遊べるよう、他の職員と連携し危険予想箇所に職員が位置し、見届ける。	☞子ども同士が、遊びを通して、共感したり話したりする姿を認めていく。
	環境図を入れることで、関わり合いや遊びの展開を見通しています。			
	友達と関わって遊ぶ	★子どもが遊びの内容を理解し興味を持続するように、絵や文字で表したパネルを見える所に提示しておく。	☞教師も遊びに参加し、楽しさを共有したり、頑張っている姿を認めたりする。	☞やりたい遊びが見つけられない子には、思いを聞いたり、誘ったりしながら、遊び始めることができるようにしていく。 ☞トラブルが生じた場合には、必要に応じて、伝え合う場を持ち、友達の思いを理解し合えるよう仲立ちをする。
	ユニバーサルデザインの視点に立って視覚化することも、子どもが自ら遊びを展開していくための大切な援助の一つです。	★遊びがさらに発展するように、子どもが遊んでいる様子を見守ったり、子どもの声を聞いたりしながら、状況に応じて環境の再構成をする。 ☞教師も一緒に片付けを行う中で、意欲的に片付けている姿を認める。		
10:15	片付け	☞「もっとこうしてみよう」という試行錯誤する姿を大事にしています。		